

楕円 $K3$ 曲面について

北海道大学大学院理学研究科 島田 伊知朗

1 Introduction

楕円 $K3$ 曲面の特異ファイバーの configuration と Mordell-Weil 群をすべて列挙する． $K3$ 曲面および楕円曲面の基礎的な事項について復習したあと，得られたリストから見て取れるいくつかの結果を紹介し，最後にこのリストを得るためのアルゴリズムの概要を示す．

アルゴリズムの基礎となるのは，楕円 $K3$ 曲面を Hodge 構造により特徴づける金銅-西山の補題 (定理 6.1) と，Nikulin による discriminant form の理論である．この 2 つの理論により，楕円 $K3$ 曲面の問題が，格子と有限アーベル群の問題に帰着される．このアルゴリズムを Maple を使用して書き，求めるリストを得た．

楕円 $K3$ 曲面の特異ファイバーの

試みられている

([12], [10]) が，いずれも extremal な楕円 $K3$ 曲面の場合にとどまっていた．一方，Nikulin の discriminant form の理論を，Torelli の定理を通して $K3$ 曲面の幾何学に応用する仕事としては，平面 6 次曲線の特異点の configuration をすべて調べた Yang [11] の結果がある．

2 $K3$ 曲面

単連結でいたるところゼロでない正則 2 形式をもつ複素曲面を $K3$ 曲面という． $K3$ 曲面は，アーベル曲面とともに，楕円曲線の曲面への一般化とみることができる． $K3$ 曲面の諸性質をまとめておこう．証明は例えば [1] を参照されたい．

定理 2.1 $K3$ 曲面は Kähler である． □

定理 2.2 $K3$ 曲面全体は連結な族をなす． □

系 2.3 任意の 2 つの $K3$ 曲面は微分同相である． □

定理 2.4 X を $K3$ 曲面とする .

(1) $H^1(X; \mathbb{Z}) = H^3(X; \mathbb{Z}) = 0$.

(2) $H^2(X; \mathbb{Z})$ はランク 22 の自由 \mathbb{Z} 加群 .

(3) カップ積 $H^2(X; \mathbb{Z}) \times H^2(X; \mathbb{Z}) \rightarrow H^4(X; \mathbb{Z}) \cong \mathbb{Z}$ により , $H^2(X; \mathbb{Z})$ を格子とみると , $U^{\oplus 3} \oplus (-E_8)^{\oplus 2}$ と同型 . ここで U は

$$\begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

を交叉行列とする格子 , $-E_8$ は負定符号 E_8 ルート格子 , つまり

$$\begin{pmatrix} -2 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -2 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & -2 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & -2 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & -2 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & -2 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & -2 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & -2 \end{pmatrix}$$

を交叉行列とする格子 .

(4) $\dim H^{2,0}(X; \mathbb{C}) = \dim H^{0,2}(X; \mathbb{C}) = 1, \dim H^{1,1}(X; \mathbb{C}) = 20$.

(5)

$$H_{\mathbb{R}}^{1,1}(X) := H^{1,1}(X; \mathbb{C}) \cap H^2(X; \mathbb{R})$$

$$H_{\mathbb{R}}^{0,2+2,0}(X) := (H^{2,0}(X; \mathbb{C}) \oplus H^{0,2}(X; \mathbb{C})) \cap H^2(X; \mathbb{R})$$

とおくと $H^2(X; \mathbb{R})$ は $H_{\mathbb{R}}^{1,1}(X) \oplus H_{\mathbb{R}}^{0,2+2,0}(X)$ と直交直和分解し , カップ積は , $H_{\mathbb{R}}^{0,2+2,0}(X)$ の上で正定値となる . □

$:= U^{\oplus 3} \oplus (-E_8)^{\oplus 2}$ を $K3$ 格子とよぶ . これは , 符号が $(3, 19)$ の unimodular な偶格子 (すべての元のノルムが偶数である格子) として , unique に特徴づけられる [8].

3 Torelli の定理

$K3$ 曲面の研究で中心的な役割をはたすのが次の Torelli 型定理である . この定理により , $K3$ 曲面の幾何学的問題の多くが格子の問題に翻訳される .

定理 3.1 (1) X, X' を K3 曲面とする. \mathbb{Z} 加群としての同型 $H^2(X; \mathbb{Z}) \xrightarrow{\sim} H^2(X'; \mathbb{Z})$ でカップ積を保ち, $\otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{C}$ が Hodge 分解を保つものが存在すれば, X と X' は同型である.

(2) $\otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{R}$ の正定値な 2 次元部分空間 P が与えられたとき, ある K3 曲面 X と, 格子としての同型 $H^2(X; \mathbb{Z}) \xrightarrow{\sim}$ で ${}_{\mathbb{R}}(H_{\mathbb{R}}^{0,2+2,0}(X)) = P$ なるものが存在する. \square

この定理の証明の歴史が [1] に簡単に書かれている.

4 楕円曲面の Mordell-Weil 群と特異ファイバーの ADE -型

複素曲面

表 1: 特異ファイバーの ADE 型

fiber	I_{l+1}	I_{m-4}^*	II	II^*	III	III^*	IV	IV^*
ADE 型	A_l	D_m	既約					

また, のオイラー数を

$$\text{euler}(\) := \sum_{l \geq 1} a_l \cdot (l+1) + \sum_{m \geq 4} d_m \cdot (m+2) + \sum_{6 \leq n \leq 8} e_n \cdot (n+2).$$

と定義する. これは, 楕円曲面 $f: X \rightarrow C$ にたいして, 可約なファイバーの和集合 $f^{-1}(R_f)$ の位相的オイラー数が常に $\text{euler}(\)$ 以上であるように定義されている.

$f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ が楕円 $K3$ 曲面なら, X の Picard 格子 $H^{1,1}(X; \mathbb{Z}) := H^{1,1}(X; \mathbb{C}) \cap H^2(X; \mathbb{Z})$ は $f^{-1}(R_f)$ の O と交わらない既約成分のコホモロジー類で生成される $L(\)$ と同型な格子 S_f と, O および $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ の一般ファイバーで生成される U と同型な格子 H_f の直和 $S_f \oplus H_f$ を含む. $\dim H^{1,1}(X; \mathbb{C}) \leq 20$ より $\text{rank}(\) = \text{rank} S_f \leq 18$ である. また X の位相的オイラー数 24 は $f^{-1}(R_f)$ の位相的オイラー数以上である. したがって, 次を得る.

命題 5.1 $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ を楕円 $K3$ 曲面とすると, $\text{rank}(\) \leq 18$ および $\text{euler}(\) \leq 24$ が成立する. \square

を $\text{rank}(\) \leq 18$ および $\text{euler}(\) \leq 24$ をみたす形式的 ADE -型の集合とする. この集合は 3937 個のメンバーを持つ.

リスト \mathcal{P} を見ることで, 次の諸結果を得る.

定理 5.2 (1) のうち, 3279 個が楕円 $K3$ 曲面の特異ファイバーの ADE -型として現れる.

(2) \in が $\text{rank}(\) < 14$ をみたせば, $=_f$ なる楕円 $K3$ 曲面 $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ が存在する.

(3) \in が $\text{rank}(\) = 14$ をみたせば, $\neq E_6 + 8A_1$ のときおよびそのときに限り, $=_f$ なる楕円 $K3$ 曲面 $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ が存在する. \square

定理 5.3 (1) \in が $\text{rank}(\) < 11$ をみたせば, $=_f$ なる楕円 $K3$ 曲面 $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ で $TMW_f = (0)$ なるものが存在する.

(2) \in 概

定理 5.5 楕円 $K3$ 曲面 $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ の Mordell-Weil 群のねじれ部分群 TMW_f はつぎのいずれかと同型である。これらの群のどれもが、楕円 $K3$ 曲面の Mordell-Weil 群のねじれ部分群として現れる。

$$(0),$$

$$\mathbb{Z}/(2), \mathbb{Z}/(3), \mathbb{Z}/(4), \mathbb{Z}/(5), \mathbb{Z}/(6), \mathbb{Z}/(7), \mathbb{Z}/(8),$$

$$\mathbb{Z}/(2) \times \mathbb{Z}/(2), \mathbb{Z}/(4) \times \mathbb{Z}/(2), \mathbb{Z}/(6) \times \mathbb{Z}/(2),$$

$$\mathbb{Z}/(3) \times \mathbb{Z}/(3), \mathbb{Z}/(4) \times \mathbb{Z}/(4).$$

□

TMW_f の位数が大きいとき、 $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ は f により特徴付けられる。

定理 5.6 $f: X \rightarrow \mathbb{P}^1$ を楕円 $K3$ 曲面とする。

- ⊂ $TMW_f \cong \mathbb{Z}/(7) \langle \rangle \quad f = 3A_6$
 - ⊂ $TMW_f \cong \mathbb{Z}/(8) \langle \rangle \quad f = 2A_7 + A_3 + A_1$
 - ⊂ $TMW_f \cong \mathbb{Z}/(6) \times \mathbb{Z}/(2) \langle \rangle \quad f = 3A_5 + 3A_1$
 - ⊂ $TMW_f \cong \mathbb{Z}/(4) \times \mathbb{Z}/(4) \langle \rangle \quad f = 6A_3$
-

6 アルゴリズムの概要

まず楕円 $K3$ 曲面の存在とその性質を Torelli の定理を使って格子の言葉に翻訳する。この仕事は、金銅 [4, Lemma 2.1] と西山 [7, Lemma 6.1] によりすでになされている。

偶格子 L の双対格子を L^\vee で表す。 L^\vee は \mathbb{Q} に値をもつ自然な双線形形式をもつ。格子 M が L を指数有限の部分格子として含むならば、 M は L^\vee の L を含む部分格子として埋め込めることに注意する。 L^\vee

表 2: Number of roots

Type	A_l	D_m	E_6	E_7	E_8
roots($L(\)$)	$l(l+1)$	$2m(m-1)$	72	126	240

(ii) $M/L(\) \cong H$.

(iii) $\text{roots}(M) = \text{roots}(L(\))$.

(iv) $M \oplus U \oplus N$ は $K3$ 格子 と同型な overlattice をもち、この overlattice のなかで M および N は primitive である。 \square

M の符号は $(0, \text{rank}(\))$ であり、 N の符号は $(2, 18 - \text{rank}(\))$ であることに注意する。

うめこみ $M \oplus U \oplus N \rightarrow$ において、 M は $S_f = H^{1,1}(X; \mathbb{Z})$ の primitive closure に対応し、 U は H_f に対応し、 N は $(S_f \oplus H_f)^\perp = H^2(X; \mathbb{Z})$ に対応する。

U が unimodular であること、および $U^{\oplus 2} \oplus (-E_8)^{\oplus 2}$ が符号 $(2, 18)$ の unique な unimodular 偶格子であることをもちいると、条件 (iv) は次の条件に書き換えられる。

(iv)' $M \oplus N$ は unimodular な符号 $(2, 18)$ の偶格子のなかに指数有限の部分格子として M および N が primitive となるように埋め込める。

与えられた条件をみたす偶格子 M

表 3: Discriminant forms of root lattices

	$D_{L(\)}$	$q_{L(\)}$
A_l	$\bar{a}_l^* \cong \mathbb{Z}/(l+1)$	$(l/(l+1))$
$D_m(m : \text{even})$	$\bar{d}_1^* \times \bar{d}_m^* \cong (\mathbb{Z}/(2))^{\oplus 2}$	$\begin{matrix} m/4 & 1/2 \\ 1/2 & 1 \end{matrix}$
$D_m(m : \text{odd})$	$\bar{d}_1^* \cong \mathbb{Z}/(4)$	$(m/4)$
E_6	$\bar{e}_6^* \cong \mathbb{Z}/(3)$	$(4/3)$
E_7	$\bar{e}_7^* \cong \mathbb{Z}/(2)$	$(3/2)$
E_8	(0)	(0)

表 4: Discriminant forms of lattices over \mathbb{Z}_p

	$p(a)$	$\begin{matrix} 2 & 0 & 1 \\ & 1 & 0 \end{matrix}$	$\begin{matrix} 2 & 2 & 1 \\ & 1 & 2 \end{matrix}$
D	$\mathbb{Z}/(p)$	$(\mathbb{Z}/(2))^{\oplus 2}$	$(\mathbb{Z}/(2))^{\oplus 2}$
q	$\frac{a}{p}$	$\begin{matrix} 1 & 0 & 1 \\ 2 & 1 & 0 \end{matrix}$	$\begin{matrix} 1 & 2 & 1 \\ 2 & 1 & 2 \end{matrix}$

命題 6.4 $\mathcal{I}D_M\mathcal{I} = \mathcal{I}disc(M)\mathcal{I}$ の素因子の集合を P_M とする . discriminant form (D_M, q_M) は , $p\text{-part}(D_M^{(p)}, q_M^{(p)})$ の直和に直交分解する :

$$(D_M, q_M) = \sum_{p \in P_M} (D_M^{(p)}, q_M^{(p)}).$$

さらに , 各 $(D^{(p)})$ \$

これらの格子の discriminant form は表 4 から得られる . したがって , 可換な p -群上の 2 次形式 (D_p, q_p) とランク n が与えられたとき , (D_p, q_p) を discriminant form にもつランク n の \mathbb{Z}_p 格子をすべて列挙することができる .

discriminant d , 符号 (r, s) , および d の各素因子 p におけるランク $r + s$ の \mathbb{Z}_p <

- [2] J. W. S. Cassels. Rational quadratic forms. Academic Press, London, 1978.
- [3] J. H. Conway and N. J. A. Sloane. Sphere packings, lattices and groups. Second edition. Grundlehren der Mathematischen Wissenschaften, **290**, Springer, New York, 1993.
- [4] S. Kondō. Automorphisms of algebraic $K3$ surfaces which act trivially on Picard groups. J. Math. Soc. Japan, **44** (1992), no. 1, 75–98.
- [5] R. Miranda and U. Persson. Mordell-Weil groups of extremal elliptic $K3$ surfaces. Problems in the theory of surfaces and their classification (Cortona, 1988), Sympos. Math., XXXII, Academic Press, London, 1991, pp. 167–192.
- [6] V. V. Nikulin. Integer symmetric bilinear forms and some of their applications. Math. USSR Izvestija **14** (1980), no. 1, 103–167.
- [7] K. Nishiyama. The Jacobian fibrations on some $K3$ surfaces and their Mordell-Weil groups. J. Math. (N.S.) **22** (1996), no. 2, 293–347.
- [8] J.-P. Serre. A course in arithmetic. Graduate Texts in Mathematics, **7**, Springer, New York, 1973.
- [9] I. Shimada. On elliptic $K3$ surfaces. preprint.
- [10] I. Shimada, D. Q. Zhang. Classification of extremal elliptic $K3$ surfaces and fundamental groups of open $K3$ surfaces. preprint.
- [11] J.-G. Yang. Sextic curves with simple singularities. Tôhoku Math. J. **48** (1996), no. 2, 203–227.
- [12] Q. Ye. On extremal elliptic $K3$ surfaces. preprint.
<http://xxx.lanl.gov/abs/math.AG,9901081>

060-0081 札幌市北区北10条西6丁目
shimada@math.sci.hokudai.ac.jp